

11/1 10:00-10:30 オリエンテーション

11/1 [水]

第1回
10:30-13:00

なぜ「フェミニストカウンセリング」が必要か
フェミニストカウンセリングがなぜ必要か、その基本的な
考え方を理解し、支援の姿勢とスキルを学ぶ。

講師：川喜田好恵
(日本フェミニストカウンセラー協会代表、ドーン財団カウンセラー)

第2回
14:00-16:30

多様な性～心理・社会的課題と支援～
セクシュアリティ、性の多様性について理解するとともに、
心理的問題とそれを取り巻く社会的課題、
支援者の役割を知る。

講師：執行照子
(NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会代表理事、
NPO法人フェミニストカウンセリング神戸理事)

11/29 [水]

第5回
10:30-13:00

DV被害者の心理と心のケア
DV被害の実態と被害者の心理、心身への影響、
子どもに与える影響等を知り、
有効な心のケア等の方法について学ぶ。

講師：竹之下雅代
(ウイメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー、
ドーン財団カウンセラー)

第6回
14:00-16:30

女性の心とからだ
～プロダクティブ・ヘルス・ライツの視点から～
医療現場から見えてきた、女性のライフサイクルと
心とからだの変化、影響について学ぶ。

講師：高田昌代
(神戸市看護大学教授、助産師)

12/6 [水]

第7回
10:30-13:00

性暴力被害の実態と支援のあり方
性暴力被害の実態、実践に対応できる
トータルな支援のあり方を学ぶ。

講師：福岡ともみ
(NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご
理事兼事務局長)

第8回
14:00-16:30

グリーフケア
～喪失体験と女性の支援～
大切な人を失うなどの体験とそのグリーフ(悲嘆)の
ケアについて、ジェンダーの視点から学ぶ。

講師：米虫圭子
(京都産業大学学生相談室主任カウンセラー、
臨床心理士)

12/20 [水]

第9回
10:30-13:00

暴力サバイバーの支援のあり方と
フェミニストカウンセラーの役割
長年のトラウマカウンセリングの実践から、
被害者の心理的回復に対してフェミニストカウンセラーが
果たす役割を考える。

講師：井上摩耶子
(ウイメンズカウンセリング京都代表)

第10回
14:00-16:30

性暴力・DV被害者への医療
被害者へのトータルな支援のために、
医療の現場では何ができるのか。
「性暴力救済センター・大阪SACHICO」の取組に学ぶ。

講師：加藤治子
(NPO法人性暴力救済センター・大阪SACHICO代表、
阪南中央病院産婦人科医師)

12/20 16:30-17:00 修了式

8回以上受講された方には修了証書を発行します。

川喜田好恵 (かわきた よしえ)

日本フェミニストカウンセラー協会代表、ドーン財団カウンセラー

組織開発、人間関係トレーニングなどに関わった後、米国の大学院でカウンセリングなどを学ぶ。帰国後、1981年より大阪府立婦人会館カウンセラーなどを
経て、1994年ドーンセンター(当時の大阪府立女性総合センター)設立当
初から2009年3月まで、相談担当コーディネーターを務める。日本DV防止・情
報センター運営委員などを務め、大学でジェンダー論などの講座を持つ。

神原文子 (かみはら ふみこ)

神戸学院大学現代社会学部教授、博士 (社会科学)

京都大学大学院社会学部専攻博士後期課程単位取得退学。専門は、家族社会学、
社会学、教育社会学、人権問題、生活の視点から、結婚の意味、夫と妻の関係、親子
関係、離婚とひとり親家庭などについて調査研究してきた。近年は、マリアテのひと
り親家庭の複合差別社会的排除について、被差別部落のひとり親調査、日韓のひと
り親家庭の比較研究、しつけと体罰などについて調査研究している。
著書に「子育てはシングルと子どもひとり親家庭で育つ子どもたちの生活実態」
(2014年、明石書店)、「子育てはシングルとひとり親家庭の自立と社会的支援」(2010
年、明石書店)、「よむかゝる現代家族 第2版」(2016年、ミカドブックス)、「教育と
家族の不平等問題-被差別部落の内と外-」(2000年、恒屋社厚生園)など

執行照子 (しぎわら てるこ)

NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会代表理事、NPO法人フェミニストカウンセリング神戸理事、
日本フェミニストカウンセリング学会認定フェミニストカウンセラー

1998年に数名の仲間と「フェミニストカウンセリング神戸」を立ち上げ、2005年
度まで代表を務める。2006年「NPO法人フェミニストカウンセリング神戸」設立
後は、理事として活動。「フェミニストカウンセリング研究」(日本フェミニストカウ
ンセリング学会会誌)、「フェミニストカウンセリング」編集委員会(編)に数多くの執筆を
行っている。

吉田容子 (よしだ ようこ)

弁護士 (市民共同法律事務所)、立命館大学法科大学院教授
日弁連女性の平等に関する委員会委員

主要著書に「人身取引-防止の観点から」(ジェンダー法学会編)、「講座
ジェンダーと法 第3巻 暴力からの解放」(2012年、日本加除出版)、「日本
における性犯罪の被害実情と処罰に關する問題」(日本刑法学会)、「刑法雑
誌」54巻1号(2014年、有斐閣)、「弁護士へのジェンダー教育」(浅倉むつ子
責任編集)、「ジェンダー法研究創刊第1号」(2014年、信山社)など。

竹之下雅代 (たけのした まさよ)

ウイメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー、ドーン財団カウンセラー

女性や子どものための心理的支援を志し、1995年ウイメンズカウンセリング京都
設立時より現職。男女共同参画センター、DV相談支援センター、保健所等
で、特に暴力被害者母子へのエンパワメントのためのカウンセリング、グループワー
ク、子育て支援に関わっている。DVや性暴力被害者のため、裁判における代
弁権活動も行っている。DV家庭で育った子どもたちがピアグループによって
子ども時代のケアをすすめる重要性を講演等で伝えている。

福岡ともみ (ふくおか ともみ)

NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうご 理事兼事務局長

1999年からDV被害者や性暴力被害者のサポートに関わる。2013年、兵庫県で初めて
の「性暴力被害者支援センター・神戸」の設立に参画。現在は名称を変更し「NPO
法人性暴力被害者支援センター・ひょうご」、日本フェミニストカウンセリング学会認定
フェミニストカウンセリングアドバイザー、京都女子大学学院非常勤講師。共著など
に「家族支援 1人ひとりと家族のために」(2005年、得津慎子編集、相川書房)、
「笑顔を取り戻した女たち マリアテ」女性たの50DV被害者-在日外国人、部落、障
害-」(2007年、社団法人東京自治研究センター・DV研究会編、パド・ウイメンズ・オフ
イス)、「フェミニストカウンセリングの実践」(2010年、井上摩耶子編著、世界思想社)、
「家族写真をめぐる私たちの歴史」(2016年、シズ編、御茶の水書房)

米虫圭子 (こめむし けいこ)

京都産業大学学生相談室主任カウンセラー、臨床心理士

アメリカの大学院にて臨床心理学を修了し、2年間ホスピスでグリーフカウンセ
ラーとして家族ケアに携わる。2001年に帰国後、ホスピス、緩和ケア施設などで
遺族のサポートグループファシリテーターとして活動。また、遺族ケアに関わる医
療者や援助者を対象にグリーフとそのケアについての講演や講義をしている。
2006年より現職。

加藤治子 (かとう はるこ)

NPO法人性暴力救済センター・大阪SACHICO代表、阪南中央病院産婦人科医師

1975年から阪南中央病院(大阪府松原市)に産婦人科医として勤務。早から「女性の
一生を生活背景も含めて診る」という目標を掲げ、診療現場でDVやレイプ被害者に
接する中で、性暴力は女性の心から深く傷つけ、人間としての尊厳を奪う。人権問
題であり、医療問題である、と認識するようになった。女性への暴力にも取り組める女性外来
として、04年から「はるウイメンズクリニック」を開業。09年6月、「女性の安全と医療支援ネット」
と「産婦人科医・精神科医・法医学者・弁護士・カウンセラー・ウイメンズセ
ンター大阪」などの草の根的な女性活動家達と立ち上げた、ネットワークの拠点として、2010年4
月阪南中央病院内に「性暴力救済センター・大阪SACHICO」を開業、代表を務める。